

禁煙治療ガイドライン作成のための文献検索

若杉亜矢¹⁾、山下ユミ²⁾、福島美知子³⁾、小田中徹也⁴⁾

¹⁾松下記念病院図書センター、²⁾国立国会図書館関西館、³⁾京都大学医学図書館

⁴⁾国立病院機構京都医療センター図書館

【背景】肺がんをはじめとする喫煙関連がんを予防するため、禁煙治療の保険適用化など禁煙支援・禁煙治療の普及が図られている。そのひとつとして、「厚生科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）効果的な禁煙支援法の開発と普及のための制度化に関する研究」（主任研究者：大島明 大阪府立成人病センター調査部長）が立ち上げられ、平成17年度に禁煙治療ガイドラインの作成作業が着手された。その中で医学文献の検索を4名の図書館員が担当した。

【方法】1．作業体制：研究班ガイドラインワーキンググループ（GLWG）のメンバー12名と図書館員4名の合計16名。2．作業手順：1)クリニカル・クエスチョン（CQ）の作成、2)用語の統一、3)テスト検索、4)テスト検索結果の検討、5)本検索、6)文献の採否判定。3．使用文献データベース：PubMed(MEDLINE)、The Cochrane Library - CENTRAL、医中誌 Web、JDream - JMEDPlus、Agency for Healthcare Research and Quality(AHRQ)、The Cochrane Database of Systematic Reviews。4．作業内容：12個のCQをそれぞれ2名（主・副）の研究班員が担当し、各図書館員は2～4個のCQを担当した。外国文献はPubMed、国内文献は医中誌 Web で検索し、そこで用いた検索式（語）を土台にして、Cochrane-CENTRAL や JDream でも検索を行った。検索期間は2005年12月～2006年4月。

【結果】文献検索は、館種の異なる図書館員4名による分担共同作業の形を取った。臨床医学や公衆衛生、臨床心理分野などの専門家との共同作業によって、相互の理解が深まるとともに検索力も高まった。

【考察】検索作業の中で意思疎通やデータ移動は主にメールで行った。更に、数度の打合せ会議も設けられ、作業進行の節目となった。テスト検索の結果に対するGLWGメンバーによる吟味内容もこの会議の場で図書館員に示され、それに基づいて本検索を実施した。その後、GLWG事務局とメンバー、図書館員の三者がメールと会合で連絡しながら各CQごとに検索式を練り、2006年4月末で検索を概ね完了し、5月からはAbstract Tableの作成作業に入った。多数のメンバーによる分担共同作業であり、文献データベースも4種から6種に変更するなど煩雑な検索作業ではあったが、GLWG事務局の好リードもあって作業は円滑に進められた。また、当研究班ではAHRQとCochrane - Systematic Reviewsは事前に検索されており、図書館員には文献検索に関する専門的知識を予想以上に要求された。